

KESエコロジカルネットワークの取り組む希少植物の保全

NPO法人 KES環境機構 理事 木村 二郎

キーワード：生物多様性、希少植物、生息域外保全、環境マネジメントシステム

はじめに

京都の伝統文化を支える生物多様性が近年少しずつ失われ、伝統文化の継続に支障が出始めています。京都発の環境マネジメントシステムを審査登録するNPO法人KES環境機構では、京都市と協働して希少植物栽培などを通じた生物多様性保全に貢献する活動「KESエコロジカルネットワーク」を進めています。本稿では、これまでの経緯や現在の状況を紹介します。

KES環境マネジメントシステムスタンダードについて

京都市において持続可能な社会の実現を目指す推進組織として、「京のアジェンダ 21 フォーラム」が1998年に設立されました。ここから、ISO14001の取得が費用や手続きの難しさから実現できなかった中小企業に、シンプルで低コストの京都発の環境認証規格を提供することを目的に、KES環境マネジメントシステムスタンダード(以下、KESという)が2001年に誕生しました。その後、多くの企業の賛同を得、現在全国で5,000近くの事業所が審査登録しています。

京都の伝統文化を支える生物多様性

京都の三大祭りの一つ葵祭は、毎年5月に賀茂社(上賀茂神社、下鴨神社)の祭事として行われ、行列の参加者の冠帽などに総計1万本ほどのフタバアオイが飾られます。このフタバアオイはかつて上賀茂神社の背後の神山などに豊富に自生していましたが、周囲の環境変化や繁殖したシカに食べられ、今はほとんど採取できなくなっています。

三大祭りのもう一つの祇園祭では、山鉦やまぼこごとに独自の粽ちまきが販売され、厄除けのお守りとして一年間民家の玄関先に飾られます。

この粽に使われるチマキザサもシカの食害に加え、数十年に一度の開花後の枯死などで自生していた京都の奥山での採取が難しくなっています。

京都市はこのような状況も考慮し、京都の暮らしや文化を支えてきた生態系や生物を守るために、2014年3月「京都市生物多様性プラン」を策定し、このプランを推進するため同年9月に「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」を開始しました。

京都市生物多様性プラン策定を契機とした京都市とKESとの協働

2015年のISO14001の改訂(2014年改訂案公開)に合わせ、KESもその目的を「汚染の予防」に加え「環境保護」を取り入れ、環境保護の例として「生物多様性並びに生態系の保護」を明記することにしていました。そこで、「京都市生物多様性プラン」の策定を契機に、京都市内の約1,300のKES登録事業所に環境改善目標の一つとして生物多様性保全にも取り組んでいただくことを企画しました。

京都の原風景を表現した植栽

京都の原風景である、「里山」→「棚田・湿地」→「池沼」といった自然環境を、上層階から下層階にかけて再現しています。池沼ゾーンではかつて京都の巨椋池に生育していた種を中心に構成しています。

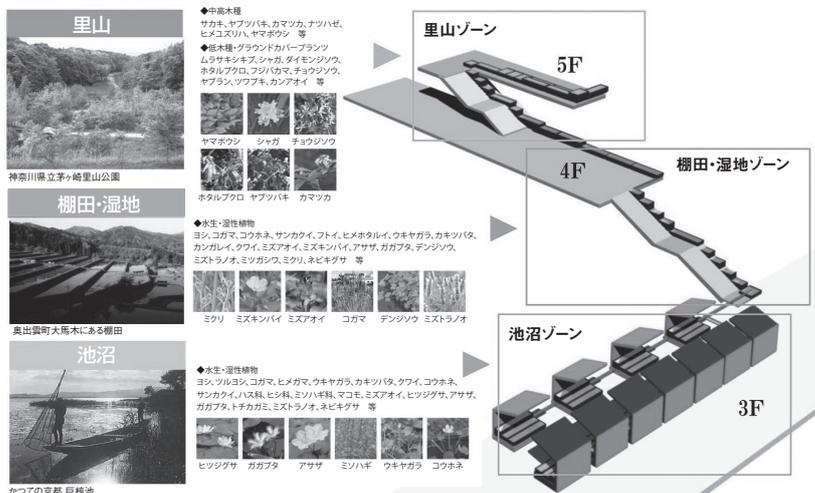


図1 京都駅ビルの緑水歩廊とプランターの植栽

ちょうどそのころ、京都駅ビルでは開業 15 周年 (2012) の記念事業として生物多様性に配慮した「ビル型雨庭」ともいうべき「緑水歩廊」を設置し、京都の固有植物をプランターで栽培していました (図 1)。都会の真ん中のビルであるにもかかわらず、植栽された植物の花などを目当てに多種類の昆虫や鳥が飛来していました。一方、京都駅から 1,500m ほど離れた梅小路公園には平安建都 1200 年を記念し生物多様性を意識して整備された「いのちの森」がありました。

そこで、生物多様性に配慮したこの二つの施設を「緑の回廊ネットワーク」で結ぶことをパイロット事業として企画し、市内に多数存在する KES 登録事業所の協力を得て実施することにしました。

具体的な施策について、京都市、(公財)京都市都市緑化協会、京のアジェンダ 21 フォーラム、京都駅ビル開発 (株)並びに KES 環境機構の 5 者で協議した結果、一般の事業所にとってわかりやすい絶滅危惧種などの希少植物を危険分散と系統保全の意味から生息域外保全として鉢植えから栽培いただくことにし、「フタバアオイ」と「フジバカマ」を選定しました。フタバアオイは絶滅危惧植物ではありませんが、前述の通り伝統行事に不可欠でありながら必要量の入手が難しくなっています。フジバカマは、遠く遡ると源氏物語にも登場する秋の七草の一つですが、京都ではほとんど見られなくなり、環境省のレッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されています。

KESエコロジカルネットワークの開始

2014 年度から希少種の生息域外保全活動を開始することにし、KES 登録事業所の理解を得るために京都駅と梅小路公園周辺の KES 登録事業所に案内して 25 社に出席いただき説明会を開催しました。説明会当日は京都市の所管部署、京都市都市緑化協会の森本幸裕理事長 (京都大学名誉教授)、上賀茂神社の神職の方等をお願いして生物多様性の意義や京都市の取組、上賀茂神社の伝統行事とフタバアオイとの関わりなどをお話いただきました。そして、フタバアオイとフジバカマの栽培への参加を募ったところ、16 社 18 事業所に KES 環境改善目標の一つとしてこれら希少植物の栽培に取り組んでいただけることになりました。1 週間後の育成実習では、交



写真 1 「葵里帰り」で上賀茂神社の葵の森に育成したフタバアオイを植栽

雑を防ぐことなどの栽培上の注意事項を説明した後、準備された鉢に参加者自らが苗を定植して、ここに KES エコロジカルネットワークがスタートすることになりました。

フタバアオイの上賀茂神社への里帰り

葵祭 (毎年 5 月 15 日) に先立つ 5 月初めに、育成したフタバアオイを上賀茂神社の葵の森に奉納する行事「葵里帰り」が開催されます。フタバアオイの保全に取り組む (一財) 葵プロジェクトが企画実施している行事で、KES エコロジカルネットワークの開始翌年 (2015 年) は 9 事業所が葵の森に参集し、葵里帰りを果たしました。その後は毎年 30 事業所ほどが参加され、葵の奉納を行っています (写真 1)。

出席された事業所の方からは「KES 環境改善目標として栽培に取り組んだフタバアオイを葵の森に奉納し葵祭に使われることで、伝統行事に関わっていることを実感でき、たいへん誇らしい」との感想をいただいています。伝統行事に結び付いた形での希少植物育成が栽培事業所の方々のモチベーションアップにつながっています。

KESエコロジカルネットワークの拡大

2014 年度に 18 事業所でフタバアオイとフジバカマの生息域外保全活動でスタートした KES エコロジカルネットワークは、翌 2015 年度に京都市内の 96 事業所、2016 年度は京都府下 180 事業所、2017 年度は市立小学校 6 校も加え 226 事業所、そして 2018 年度には 247 事業所が参加するまでに拡大しました。

希少植物についてもフタバアオイとフジバカマに加えて毎年 1~2 種ずつ京都ゆかりの草本 (いずれも京都市周

辺の地域性種苗)を加え、現在は10種の植物種に拡大しました(表1)。また、3年目となる2016年度からは①「希少植物栽培」に加え、②「生物多様性に配慮した自社敷地内の緑化活動」、③「その他生態系保全活動」と活動の種類を大きく3種に広げ、例えば緑化活動では3m²以上の屋上緑化、壁面緑化、地上緑化、雨庭緑化などそれぞれの事業者の実情とニーズに合った活動を設定できるよう配慮しています。

2018年度のKESエコロジカルネットワークに参加している京都市内のKES登録事業所を地図上にプロットすると、図2のように京都市全域に分布しており、当初目指していた京都駅ビルの緑水歩廊と梅小路公園のいのちの森を結ぶ「線」が京都市全域の「面」にまで拡大したといえます。

KESエコロジカルネットワークの成果とその他の施策

- (1) 生物多様性という広範囲で難しい概念を「希少植物の生息域外保全」というわかりやすい取組で代表し多くの環境改善を目指す事業所に普及できました。
- (2) 京都の伝統文化とゆかりの深い希少植物を選定したことにより、京都市の認定制度とも相まって、参加事業所に文化と生物多様性の関わりを認識いただき、またそのことに対する実感と誇りを持っていただけました。
- (3) 上賀茂神社の葵の森への返納による葵祭へのフタバアオイの提供や、東山の菊溪川をキクタニギクの花の川に再生する京都市の施策に呼応したキクタニギクの苗の提供など、実効的な成果も現れつつあります。

表1 KESエコロジカルネットワークで生息域外保全栽培をしている希少植物

希少種名称	草本の科	環境省レッドデータブック	京都府レッドデータブック	京都市認定 ^{*1)}	累積栽培鉢数 ^{*2)}	備考
フタバアオイ	ウマノスズクサ科	—	—	第3号	348	葵祭りへの供給難しい
フジバカマ	キク科	準絶滅危惧	絶滅寸前		221	府内で自生地ほぼ消失
ヒオウギ	アヤメ科	—	準絶滅危惧	第10号	116	祇園祭で飾られる
キクタニギク	キク科	準絶滅危惧	絶滅危惧		146	東山の菊溪では絶滅
オミナエシ	スイカズラ科	—	準絶滅危惧	第12号	36	生息地の里草地減少
カワラナデシコ	ナデシコ科	—	—		69	府内で自生地減少
アヤメ	アヤメ科	—	絶滅危惧	第16号	42	府内では絶滅危惧種
ワレモコウ	バラ科	—	—		21	府内で自生地減少
クリンソウ	サクラソウ科	—	準絶滅危惧	第20号	23	2018年度追加
ノカンゾウ	ススキノキ科	—	絶滅危惧		申請予定	4

*1) 京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定番号を示す。
*2) 今年度栽培申込み鉢数含む。1鉢には3～5株を植栽。

- (4) フジバカマの花に飛来する旅する蝶アサギマダラが多くの栽培事業所で確認され、新聞にも掲載されました。フジバカマの栽培を通して昆虫と草木の生物多様性にも目を向ける方が増えたと思われます。
- (5) 希少植物の展示場所として梅小路公園の朱雀の庭(フジバカマ)や京都駅ビルの緑水歩廊(キクタニギク)などを事務局が提供し、栽培事業所に出展いただいてこの活動と栽培企業のPRを図っています。

おわりに

KESエコロジカルネットワークは5年間で約250事業所の参加を得、更に毎年20事業所ほどが新たに加入しています。これは、環境マネジメントシステムの環境改善目標として生物多様性保全を推奨したことに事業所が呼応した結果であり、伝統文化との関わりや京都市認定制度も大きな推進力になっています。

今後の展開として、例えば、八坂神社の初詣とゆかりの深い「オケラ」や祇園祭の「チマキザサ」などの京都ならではの伝統と結びついた種の追加や、グリーンインフラの1形態として注目される「雨庭緑化」を簡略化して取り組みやすくし、普及させていくことなどを考えています。



木村二郎(きむら じろう)

環境カウンセラー(環境省認定)。ISO環境マネジメントシステム審査員補(一般社団法人産業環境管理協会)。KES環境機構で環境マネジメントシステムの審査登録に従事。



図2 KESエコロジカルネットワーク事業所の市内分布(Google map)